

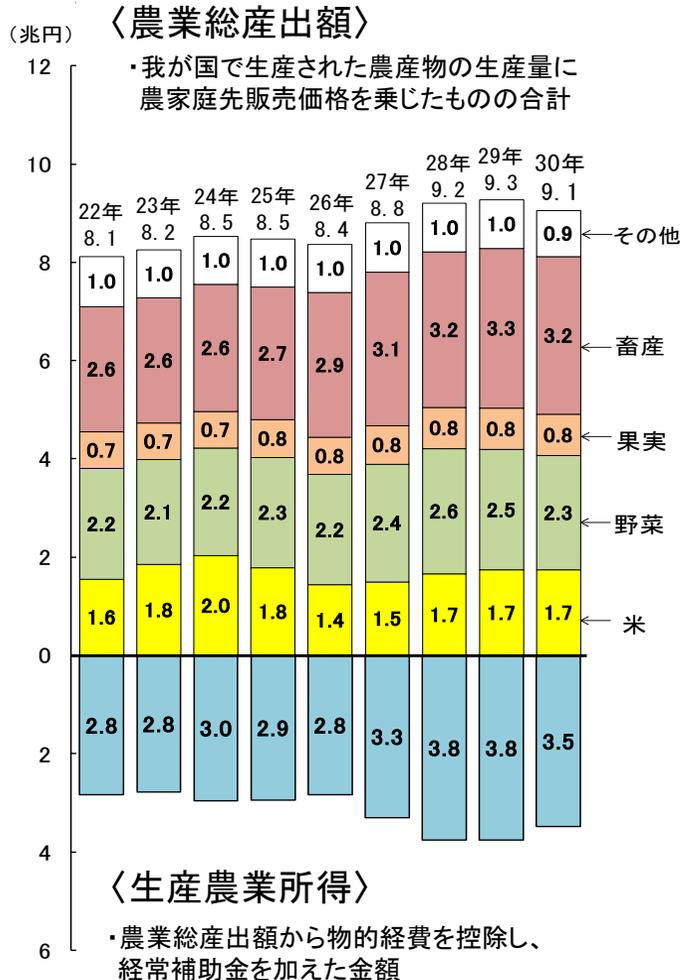
農業を取り巻く情勢

令和2年9月
事務局

1. 農政を取り巻く状況の変化(1)これまでの農政改革の着実な進展

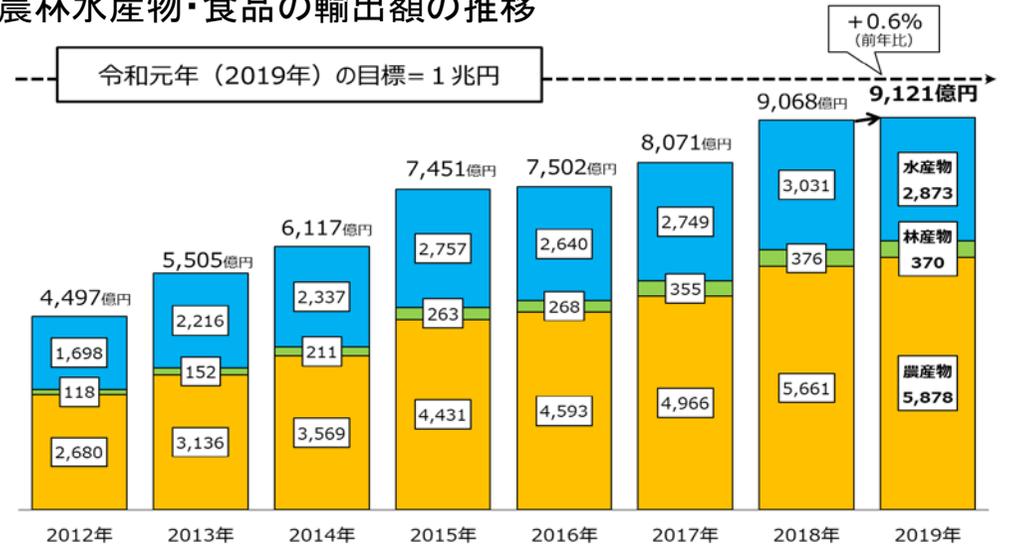
○ 農業の成長産業化に向けて農政改革を推進。近年、農林水産物・食品の輸出額や農業所得が増加傾向にあり、若者の新規就農が増加するなど、成果が着実に現れてきている。

○ 農業総産出額及び生産農業所得の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

○ 農林水産物・食品の輸出額の推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ 49歳以下の新規就農者数の推移

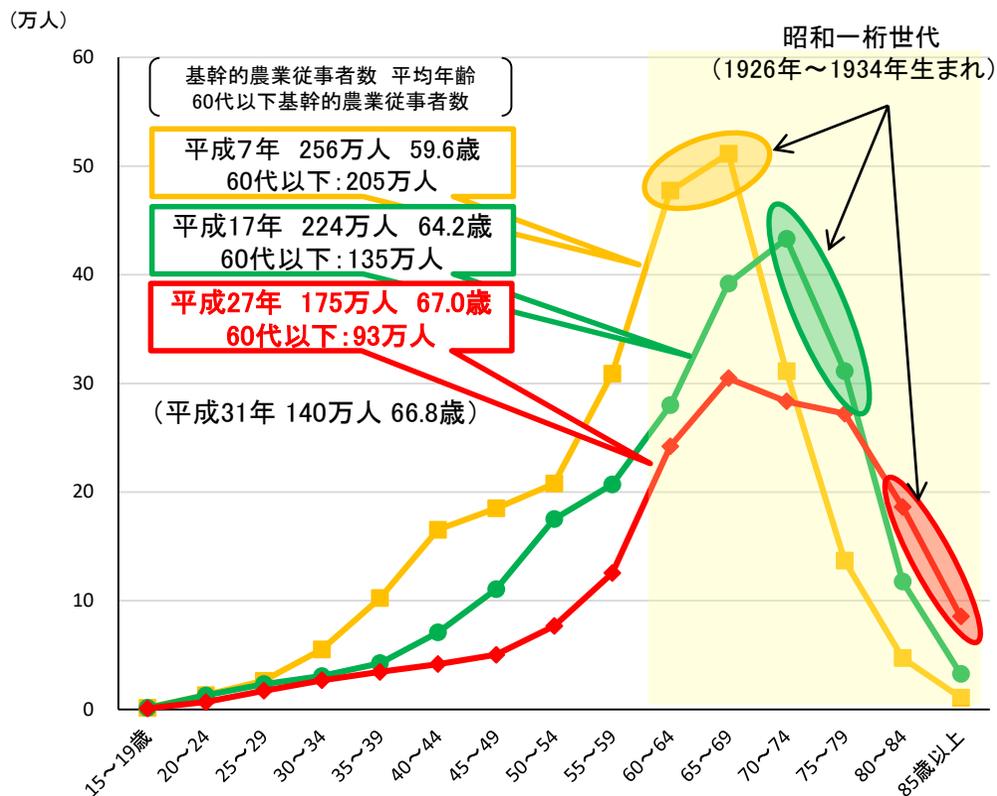


資料：農林水産省「新規就農者調査」

1. 農政を取り巻く状況の変化(2)生産基盤の脆弱化

- 我が国の農業を支える基幹的農業従事者は年々高齢化し、今後一層の減少が見込まれることから、担い手の確保が困難となり、農業の持続可能性が懸念される地域が発生する可能性がある。
- 農地面積は、主に荒廃農地の発生や宅地等への転用等により、減少が続いている。

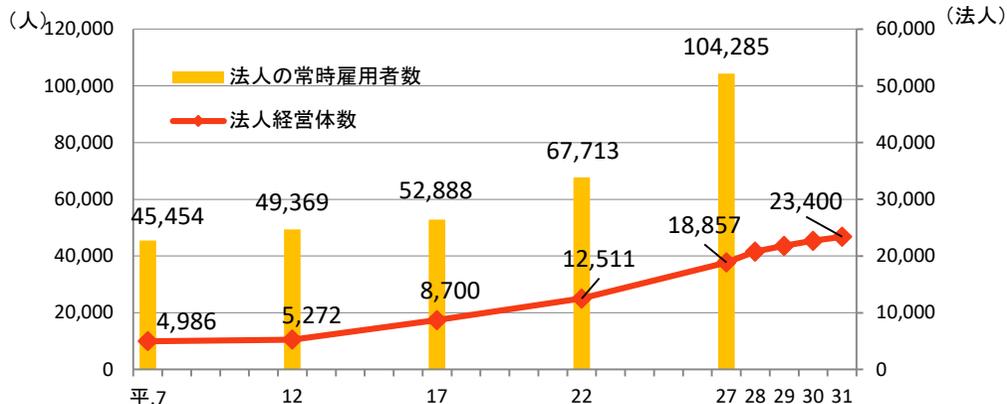
○基幹的農業従事者の年齢構成の推移



資料:農林水産省「農林業センサス」(組替集計)、「農業構造動態調査」

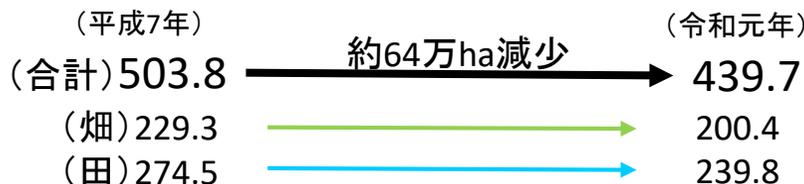
基幹的農業従事者:販売農家の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。
(家事や育児が主体の主婦や学生等は含まない。)

○法人経営体数と常時雇用者数の推移



資料:農林水産省「農林業センサス」、「農業構造動態調査」

○農地面積の推移(万ha)



○荒廃農地(市町村による客観ベースの調査)

(単位:万ha)

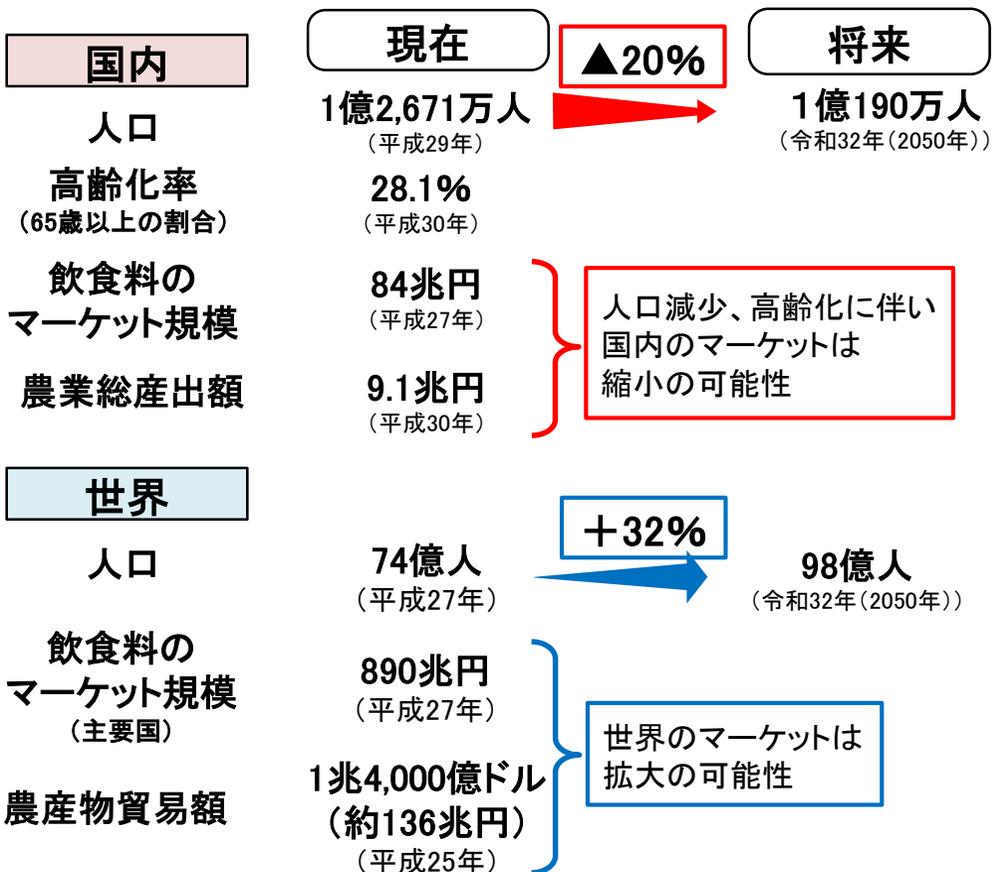
	荒廃農地面積計	再生利用が可能な荒廃農地(A分類)	再生利用が困難と見込まれる荒廃農地(B分類)	(参考値)再生利用された面積
平成30年	28.0	9.2	18.8	1.0

・本表の数値は、避難指示のあった福島県下7町村のほか、東京都下1村の計8町村除く。
・四捨五入の関係で計が一致しない。

1. 農政を取り巻く状況の変化(3)国内外の環境変化

- 人口減少に伴う農産物・食品の国内マーケットの縮小、世界の農産物・食品のマーケットの拡大など、我が国の農業をめぐる環境は今後大きく変化していくと見込まれる。
- 加えて、近年は、大規模な自然災害や、CSF等の家畜疾病の発生、新たな感染症の発生など、農業・食品産業への影響が懸念される事態が発生。

○国内外の市場規模の変化



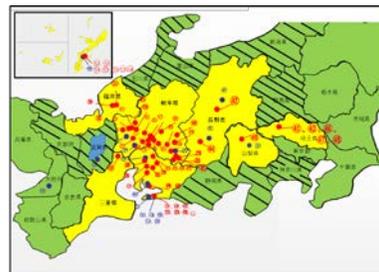
○近年の災害による農林水産関係の被害

	被害額(億円)	発生した主な災害
平成27年	1,107	
平成28年	4,358	熊本地震
平成29年	2,323	
平成30年	6,282	豪雨(西日本)、胆振東部地震
令和元年	4,883	台風15号、台風19号(東日本)

(令和2年4月末時点。農林水産関係で集計)

○CSF等の家畜疾病の発生状況

■ CSFの発生状況
(R2 5/11時点)



黄色：豚及び野生イノシシ陽性確認県
斜線：野生イノシシ陽性確認県

■ ASFの発生状況 (計64カ国・地域)
(R2 5/22時点)

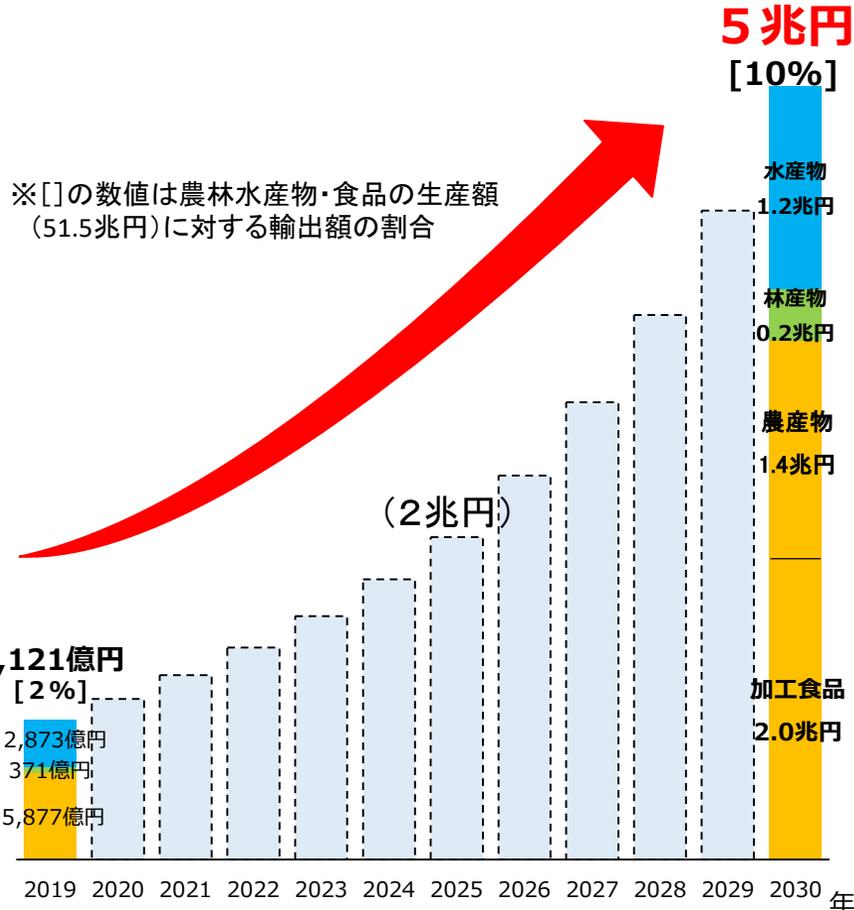


赤色：2005年以降OIE等に発生通報のあった国・地域

2. 輸出に関する取組(新たな農林水産物・食品の輸出額目標、品目横断的な取組)

- 2030年に、農林水産物・食品の輸出の目標を5兆円とする。
- 4月に「農林水産物・食品輸出本部」を設置し、実行計画（工程表）に基づく取組を加速化するとともに、GFPによるマッチングやグローバル産地づくり、戦略的なプロモーションを進める。

○新たな輸出目標



※農林水産物由来の新たな加工品及び少額貨物（1ロット20万円以下）を新たに輸出額のカウントに追加（上図の内訳には含まれない）

○品目横断的な輸出拡大の取組

1 農林水産物・食品輸出本部の設置（2020年4月）

- 輸出先国との協議の加速化（放射性物質規制 等）
- 輸出向けの施設整備・認定の迅速化
- 輸出証明書の申請・発行の一元化
- 在外公館の対応の強化 等

2 GFPによるマッチングやグローバル産地づくり支援

- GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）による輸出診断、マッチング、輸出を目指した産地（グローバル産地）づくりの支援
- 輸出向け施設の整備支援

3 戦略的なプロモーションの実施

- 日本産品のブランディングのためのプロモーション
- 海外の日本食レストランにおける取組の強化

3. (1) スマート農業について

「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡ 「生産現場の課題を先端技術で解決する！ 農業分野におけるSociety5.0※の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

① 作業の自動化

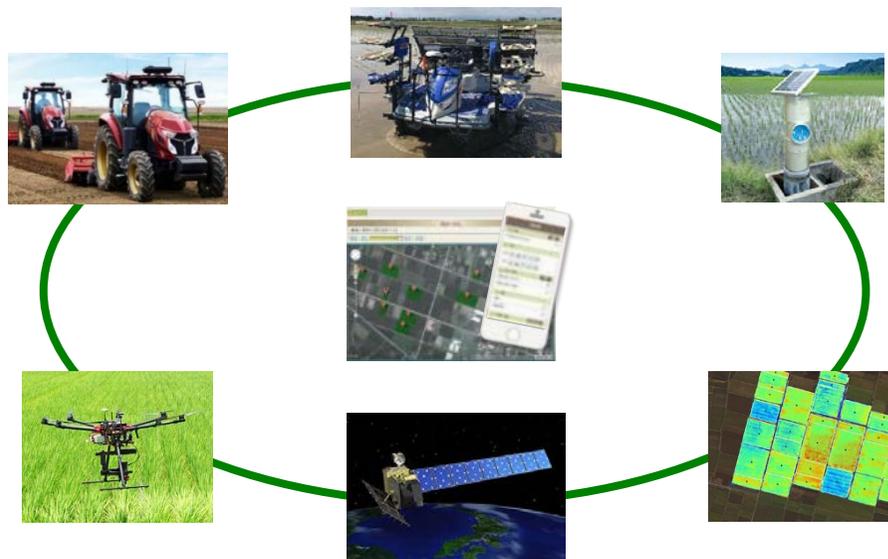
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に

② 情報共有の簡易化

位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に

③ データの活用

ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に



農業データ連携基盤 (WAGRI)

スマート農業をデータ面から支えるプラットフォーム。生産から加工・流通・消費・輸出※に至るデータを連携。

※内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」において、WAGRIの機能を拡張したスマートフードチェーンシステムを開発中



WAGRI

3. (2)スマート農業推進総合パッケージ(案)

(1) スマート農業の実証・分析、普及

- ①スマート農業実証プロジェクト
- ②戦略的な研究開発の推進
- ③横展開に向けた体制強化

実証：スマート一貫体系のイメージ（大規模水田作）

研究開発の例

経営管理 耕起・整地 移植・直播



水管理 栽培管理 収穫

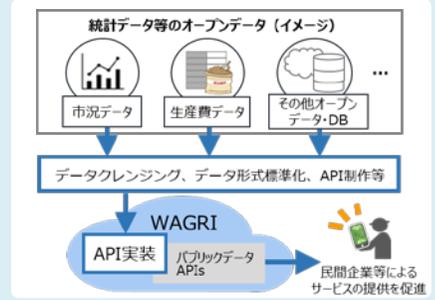


(3) 実践環境の整備

- ①スマート農業に適した農業農村整備
- ②農業データの活用促進
- ③技術進展に応じた制度的対応

農業農村整備

データ活用環境の整備



(2) 新たな農業支援サービスの創出

- ①プラットフォームの創設と育成プログラムの策定
- ②農業支援サービスの調査・分析、マッチング
- ③農業支援サービスへの支援強化

スマート農業新サービス創出プラットフォーム

農業支援サービス関連施策の紹介



(4) 学習機会の提供

- ・スマート農業教育の充実 等

共通カリキュラムの作成・提供

農業アイデアコンテストの開催



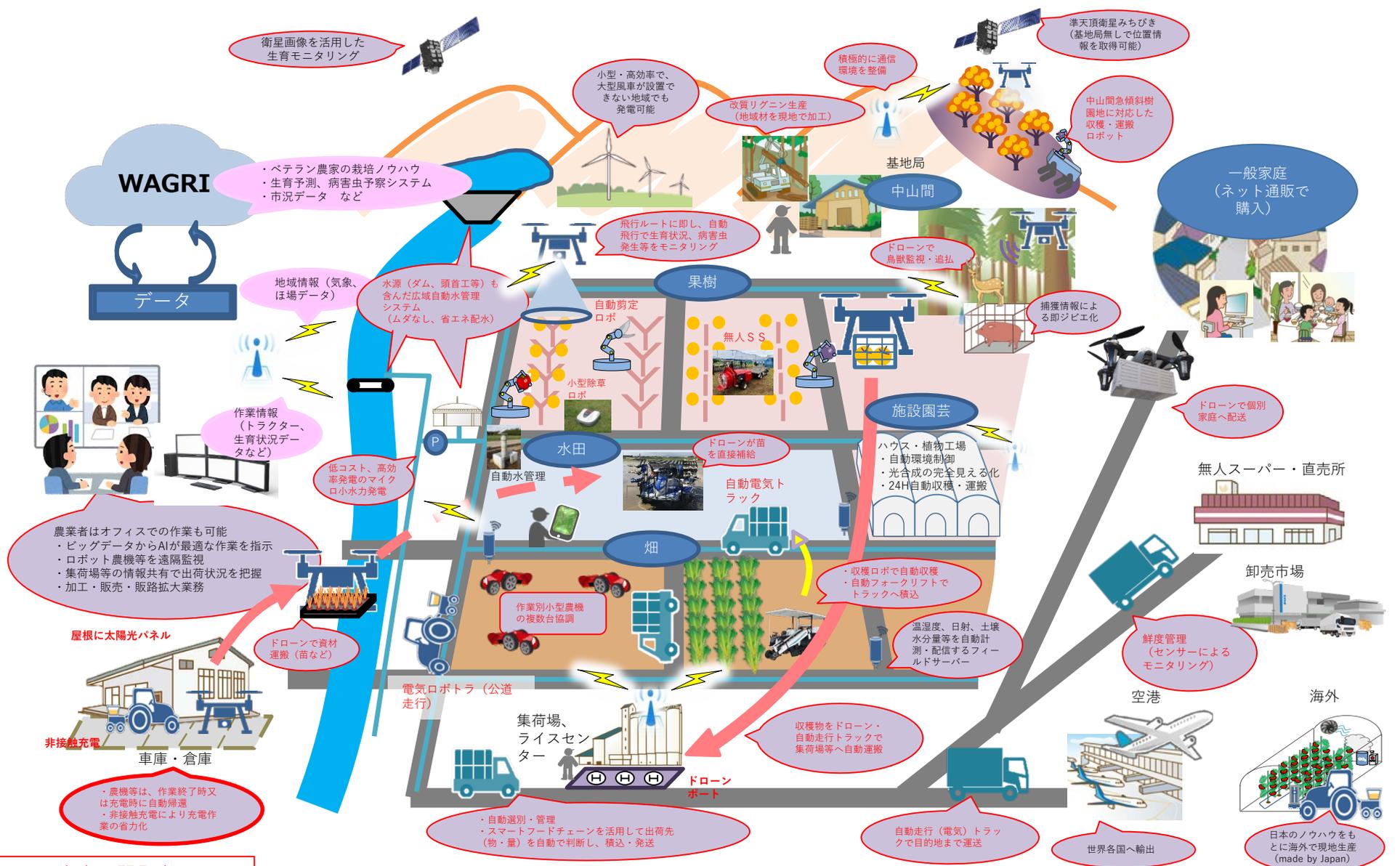
(5) 海外への展開

- ・国際的なアウトリーチ活動の強化 等

官民挙げた海外展開の取組推進



3. (3)スマート農業政策 2040の姿



赤字：開発中 (開発が期待されるもの)

